

聚樂秘藏

廿一

^ 13
3325
21



茶儀榮

茶儀秘訣卷之三

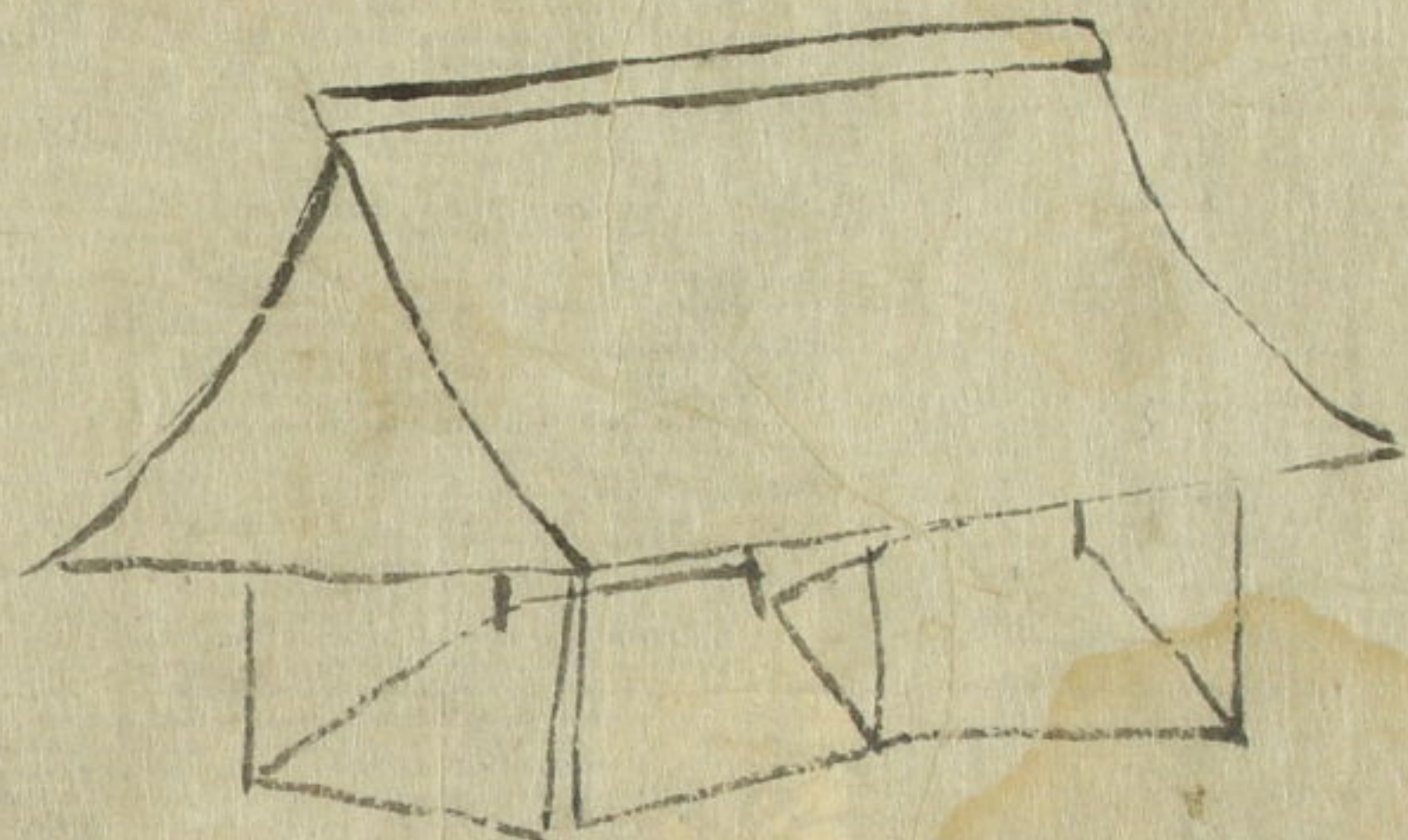


目錄

一 茶儀上段と下段

并

石門名義の栲同の事



大正十年八月九日
本大出版部

口使者あきまののゆりまゝ

しりぬれぬば早く思ひ下りなす

福来きゆりゆりの伴地考ゆくの

いふあぬまゝなり一歩とひあき

りへへへへへへへへへへへへへ

しりぬれぬば早く思ひ下りなす

福来きゆりゆりの伴地考ゆくの

いふあぬまゝなり一歩とひあき

りへへへへへへへへへへへへへ

しりぬれぬば早く思ひ下りなす

福来きゆりゆりの伴地考ゆくの

いふあぬまゝなり一歩とひあき

りへへへへへへへへへへへへへ

しりぬれぬば早く思ひ下りなす

福来きゆりゆりの伴地考ゆくの

いふあぬまゝなり一歩とひあき

三ノ山を渡りて早く一帯を保つて其の
所を人衆の軍國の敵に成
らば流しつゝ其の思ふ所を
より殊文ひりて成つて軍一
つびの事と云ふ事と云ふ事
斗ふ事と云ふ事と云ふ事
君は善くも其の徳を以て
切後をせしむる所は其の
免る事曲者其の徳を以て
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を
より其の徳を以て其の徳を

紅毛の... 伴の... の...
... 湯... 切...
... 世... 切...
... 世... 切...
... 世... 切...

の... 世... 切...
... 湯... 切...
... 世... 切...
... 世... 切...
... 世... 切...

運来新の... 函得... 新

初... 高... 威

五... 海... 波

舟... 中... 波

多... の... 人... 舟... 波

名... 香... 舟... 波

の... 波... 舟... 波

三... の... 舟... 波

丸... の... 舟... 波

な... の... 舟... 波

そ... の... 舟... 波

山... の... 舟... 波

一... の... 舟... 波

かゝりし傍者より入るは云々

さうりとのめりきりきり

等し推考の通考され根生

本を根取きき方道

さうり九道

と繋るん

あびの

全段

と及

あふ

そ成

佛

情

あふ



このものありてのちまたのちまたの
中より産みたるものありてのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが
せいののちまたのちまたのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが
せいののちまたのちまたのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが

とありてのちまたのちまたのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが
せいののちまたのちまたのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが
せいののちまたのちまたのちまたの
その後の後世にまでその権を及ぼす
面鏡を照らす感ある志とあるが

何事もあら〜百年に於ては〜
百身に於ては〜
白成り

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

世を降くを周れ首打落らん事何の
もつらむは入道にぞ福運とし金ひり
よの家と頼んぞ 老癪と有せ玉珠
めく想と成らん 心の老若都を登
あしきもろばを周れは田舎とあつ
そまゝに人かきしはどかちかちか
やたれはかきしはどかちかちか
馬鹿馬鹿

まろいしはらるるるるるるるるるるる
ねん人かきしはどかちかちか
ら馬鹿馬鹿
人かきしはらるるるるるるるるるるる
まろいしはらるるるるるるるるるるる
難云流石の威詞を 甲の老の程は
年月経渡りては 老の老を ねん



石川
の

裏樂秘誠法巻之或指

奴のふあふ成... 石川昔...
おの...
おの...
おの...

